

「国分寺市ビジョン」（案）へのパブリック・コメントの結果について

○パブリック・コメントに対する意見について

意見の募集期間：令和6年6月3日（月）から令和6年7月3日（水）まで

意見をお寄せいただいた方の数：7（個人7・団体0）

お寄せいただいた意見の数：34件

反映する意見の数：7件

（案）に反映済みの意見の数：6件

※反映状況について
有：反映する意見
無：反映しない意見
済：（案）に反映済みの意見

No.	項目	いただいた意見の概要	市の考え方	反映状況
1	全体	分野別の都市像を実行計画に入れることの意義も分かる一方で、それがパブリック・コメントの対象にならないことで、理念的な基本構想となってしまう、市民の意見を出しにくくなっていると感じる。	少子高齢化や地球温暖化など激しい社会環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できるよう、分野別都市像は実行計画に移行しました。	無
2	全体	全体として、持続可能という意識があまり見えてこない。SDGsは、持続可能な社会の達成には、環境だけではなく、貧困や平等などの概念も含まれている。国分寺市ビジョンにもっと、持続可能という概念を入れ込むべきだと考える。	未来のまちの姿の解説文において「この未来のまちの姿を目指して、互いの個性を認め合うことで、すべての人がいきいきと暮らせる持続可能な地域社会がつくられていきます。」としています。	済
3	「国分寺市ビジョン」とは	「私たちを取り巻く環境は刻々と変化しています。」とあるが、少子高齢化と地球温暖化は「刻々」と言えるようなレベルではない。6月から夏が始まり、10月、11月までその暑さが続く。農作物への影響、ゲリラ豪雨、子どもたちの学校生活への影響など、とても「刻々」と悠長に構えていられない状況であり、「急激」への表現の変更することを求める。	ここでは変化のスピードの速さを表現しています。変化の度合いについては、第2段落で「社会環境の変化が激しい時代」としています。	済
4	「国分寺市ビジョン」とは	「みんなで共有し」とあるが、その後に「市民」と出てくるので「市民」に変更するべきではないか。	国分寺市ビジョンは、市、市民、事業者等が丸となって進めるまちづくりの共通目標であり、一体感を表すために「みんな」としています。	無
5	未来のまちの姿	『未来のまちの姿』という個性は「市」の個性と捉えられるが、『「国分寺市ビジョン」とは』の部分では「一人一人がそれぞれのカタチ」とあり、個人の在り方に注目しており、それぞれで分かりにくい表現となっている。ダイバーシティとして多様な個性が認められる社会を目指すのであれば、「一人一人の個性がひかり輝くまち」又は、「一人一人の個性が輝くまち」の方がまちの姿として適切と考える。	人の個性もまちの個性も国分寺を構成する要素と捉え、その両方が輝くまちを目指すこととしています。	済
6	未来のまちの姿	「歴史をつなぎ」とはどのような意味なのか。	市に根付いてきたまちの個性を守り伝え、多様な主体が関わり合うことで新たな価値を創造することを意味します。	無
7	未来のまちの姿	8年後の達成を目指す「未来のまちの姿」として「歴史をつなぎ未来をひらく個性がひかり輝くまち」とあるが、8年で達成するようなものではなく、理念的すぎる印象を受ける。その後の文章にある「多様な主体が関わり合う・新たな価値を創造する」といった具体的な表現の方が、8年後としてイメージしやすいと思う。	市民ワークショップ等での意見で、人と人とのつながりの創出や多世代交流の促進、歴史や自然などの地域資源の継承と価値向上、安全・安心で住みやすい環境の維持向上等の意見が多くあったことから、これらを網羅すべく、未来のまちの姿ではイメージを共有し、具体的な内容については、後続の解説文に記載しました。	無
8	未来のまちの姿	「ひかり輝く」は新幹線の愛称「ひかり」にかけているかと思うが、「光り」と「輝く」は類義語なので、重複した表現になっている。	人もまちも相互に補完し合って輝くことを強調するために、このような表現にしています。	無
9	未来のまちの姿	「個性がひかり輝くまち」の表現について、国分寺のまちの個性なのか、国分寺に暮らす市民の個性なのか分からない。両方の意味を含んでいるにしても分かりにくい表現だと感じる。国分寺のまちの個性であれば、主語は「まち」であり「市民」ではないということになるが、一人一人がビジョンの下にまちに生きてこそ未来の姿だと思うので、「市民」を主語にした表現が良いと感じる。	人とまちの両方の個性が輝くまちを目指すという意味を込めてこのような表現にしています。	無

No.	項目	いただいた意見の概要	市の考え方	反映状況
10	未来のまちの姿	まちの個性だけではなく、一人一人の個性を大切にすることを押し出すことが重要だと考える。 まちづくりの主役が「人」であると基本理念で掲げるのであれば、未来のまちの姿に、個人の個性を大切にすることを盛り込むほうが筋道が立てやすいと思われる。まちの個性は、一人一人の個人の活動の上に成り立っていることをもう少し強調した方がよい。	No. 9と同様	無
11	未来のまちの姿	「ビジョン」とは組織において、20年後、30年後に在りたい姿を掲げ、中長期的に取り組んでいくべきキーワードである。その観点から、現行のビジョンは市民の大半がこうなっていほしいと思っている市の将来像を簡潔に表したものであり、現在も色あせていないため、今後も生かせる標語であると考え。 新たな未来のまちの姿の「未来をひらく」や「個性が輝く」は一般的に使われる表現であり、国分寺ならではの魅力や将来像が見えてこない。 現行のビジョンを継続することを基本としつつ、未来のまちの姿を「魅力あふれ ひとがつながる 歴史・文化・緑のまち国分寺」にすることを提案する。 現行のビジョンでは、文化都市を目指すとして明確に表明しており、市民ワークショップでも「国分寺の歴史資産のすばらしさをアピールすべき」や、「自然に恵まれていることや『こくべじ』を生み出す農地を大切にすべき」という意見が多く出されたことから、「文化」と並んで「歴史」や「緑」を掲げた方がよい。	No. 7と同様	無
12	未来のまちの姿	ワークショップで出た、自然が豊かで交通の便が良いといった現状と、人のつながりや施設等の充実を求める声があり反映されていないと感じる。	「都心へのアクセスに優れ」「国分寺崖線沿いでは豊かな湧水と緑が存在し、市内各所で農地が数多く見られる」「人と人とのつながりを変わらずに大切にしながら、更にその結び付きを強めていく必要があります」と記載しています。施設等の充実については、実行計画の施策の検討に当たり参考とします。	済
13	未来のまちの姿	「武蔵国分寺跡」と「木造薬師如来坐像」は文化財として同じレベルの指定であり、一方に「国の重要文化財」を表記し、他方に「国の史跡」を付さないのは適切ではない。また、「国分寺には貴重な」という表現は、宗教法人国分寺と混乱するため、「市内」又は「国分寺市内」の表記が無難である。 これらを踏まえ、「国指定史跡の武蔵国分寺跡や国指定重要文化財の木造薬師如来坐像など、市内には貴重な文化財が数多く残されています」に修正してはいかかが。	「市名の由来となっている国指定史跡の武蔵国分寺跡や国指定重要文化財の木造薬師如来坐像など、市内には貴重な文化財が数多く残されています」に修正しました。	有
14	未来のまちの姿	文化財保護法は、貝塚や古墳をはじめとする遺跡のうち、日本国にとって歴史上または学術上価値の高いものを、文部科学大臣が「史跡」として指定できると規定している。このことから、「史跡」は「文化財」の一部であり、「史跡・文化財が数多く」という表現は正しくない。	No. 13と同様	有
15	未来のまちの姿	「歴史と科学が融合した」とあるが、今でも宇宙に関する研究開発が行われているという誤解を与えかねない。また、「融合」とは「一つに溶け合うこと」を意味するが、市内で歴史と科学が溶け合っている具体的なイメージがつきにくい。	日本の宇宙開発発祥の地は市の個性の一つであり、これに新幹線の技術開発を含めた科学と、国指定重要文化財が数多く存在する歴史が、それぞれまちの個性として国分寺市を形成していることを表しています。 「融合」という表現を改め、「歴史と科学が融合した個性あふれるまち」を「歴史と科学が息づくまち」に修正します。	有
16	未来のまちの姿	「歴史と科学が融合した個性あふれるまちでも」の「も」がつくと、「歴史」だけでなく「科学も」とあるという文脈から、「歴史と科学が融合した」という表現では、「歴史」が重複して表記されている。 「さらに、ペンシルロケットの水平発射実験が行われた日本の宇宙開発発祥の地、新幹線の愛称「ひかり」に由来する地名がある新幹線の技術開発の地でもあり、歴史と科学に彩られた個性あふれるまちです」としてはいかかが。 または、『未来のまちの姿』を「一人一人の個性が輝くまち」とするならば、「さらに、ペンシルロケットの水平発射実験が行われた日本の宇宙開発発祥の地、新幹線の愛称「ひかり」に由来する地名がある新幹線の技術開発の地でもあり、歴史と科学に彩られた個性が輝くまちでもあります」に修正することを提案する。	前段落の「都市だけどこか懐かしく、特別な心地良さのあるまちです」に加える形で「も」を記載しています。 しかしながら、同じ段落に「でもあり」が2箇所あることから、「日本の宇宙開発発祥の地、新幹線の技術開発の地でもあり」を「日本の宇宙開発発祥の地、新幹線の技術開発の地であり」に修正します。	有

No.	項目	いただいた意見の概要	市の考え方	反映状況
17	未来のまちの姿	「これらの個性は、長い歴史の中で人から人へ想いとともに受け継がれながら、培われてきました」という一文について、「小惑星Kokubunji」は最近の出来事であるため、ここでいう個性からは外すことが無難である。 また、歴史については「人から人へ想いとともに」受け継がれることは理解できるが、ペンシルロケットの水平発射実験や新幹線技術開発が具体的にどのような想いとともに長い歴史の中で引き継がれたのかが不明確である。 さらに、「個性」を「培う」は一般的ではなく、「育む」とするのが妥当であると考え。前段で「個性」を強調しているため、「これらの個性」と強く打ち出すことで、宇宙や新幹線の説明が苦しくなると考える。 そして、「想い」は常用漢字外で、心に感じるままに思い浮かべる、イメージしたものに使われる言葉であり、「思い」の方が広い意味をカバーできると考える。 これらを勘案し、「これらのまちの姿は、長い歴史の中で人から人へ想いとともに受け継がれながら、育まれてきました。」としてはいかがか。	小惑星「Kokubunji」命名の発端となった本市が日本の宇宙開発発祥の地であることは、長い歴史の中で培われてきた本市の魅力の一つです。 「培う」は時間を掛けて育てる意味を持つことから使用しています。 「想い」については、メッセージを持たせるために使用しました。なお、漢字の活用に関しましては、他の箇所においても、市民に分かりやすく身近に感じていただくために、公用文と表現を変えています。	無
18	未来のまちの姿	・「まちの個性」とは、一般的に「そのまちに来ないと得られない価値」と考えられ、小惑星「Kokubunji」は国分寺市に存在せず、見られないため、まちの個性というのは難しいと感じる。まちに来て得られる価値とするならば、ペンシルロケットの水平発射実験を前面に出してはいかがか。 ・「まちの個性」については、まちを探索することが個性の発見につながるため、「歴史や地形、その場所が持つ「記憶」の積み重ね」とも言われている。まちの個性は、まちをより魅力的にし、まちを活発にする力がある。市民が憩うことができる場所がまちの個性といえるのであれば、小惑星「kokubunji」は行くことができないため、まちの個性からは少し外れると考える。	小惑星「Kokubunji (コクブンジ)」は、本市特有の資源であることから、まちの個性と捉えています。	無
19	未来のまちの姿	個性とは、「個体に特有な性質。他の人と違った特有の性質」を意味し、個性には「先天的」なものと「後天的」なものがあり、「先人から受け継いだ個性」は、国分寺市に特有な性質を指しているのは理解できるが、本文中の説明だけでは「特有」が曖昧である。 一人一人の「個性」を大切にするという意味で、「先人から受け継いだまちを大切にしながら、国分寺に関わるすべての人の個性が輝き、世代や性別、国籍などの枠を超えてつながり、共鳴し合うことでその価値を高めていきます。」を提案する。	前段落までに解説しているとおり、心地よさ、歴史、科学などはまちの個性であり、人の個性と合わせて国分寺市を構成する要素として、大切にしていけるものと捉えています。	無
20	未来のまちの姿	「世代や性別、国籍などの枠を超えてつながり」とあるが、マイノリティやマジョリティの枠を超えてという意味だと思うが、その壁を乗り越えるには「想像力」が必要だと考える。人は誰も自分の人生しか生きることができないが、それでも共鳴しあえるのは想像力があるからである。「枠を超えてつながり、想像力を持って共鳴しあう」など「想像力」という表現を取り入れることを提案する。	共鳴は、他人の感情等をあたかも自分自身のこととして感じ、理解することが前提となります。また、まちづくりの基本理念においても、「思いやりをもって関わり合う」とし、その視点を取り入れています。	済
21	未来のまちの姿	国分寺の個性をどのように捉え、どのように輝かせていくのかをもっと具体的に表現することで、より未来のまちの姿が捉えられると感じる。	歴史や自然、住みやすさなどを未来につなげるべき大切なまちの個性であると捉えています。 どのように輝かせていくかについては、実行計画において具体化していきます。	無
22	まちづくりの基本理念	現行のまちづくりの基本理念は、「ともに」を共通ワードとして語呂の良い短い言葉に凝縮した点が評価できる。 新たな基本理念の「人が主役」、「変化にしなやか」は新鮮味に乏しい。 このことから、「①ともに考え、ともに進める」、「②ともに魅力を高める」、「③住みたい、住み続けたいまち」を提案する。 ①は、市民が参加し、ともに地域の課題を「考える」プロセスが大切であり追加した。②は、何を高めるのかが分かりにくいので「魅力」を追記した。③は、未来につなげる意味が分かりにくいので、それよりも移り住みたいまち・ずっと住み続けたいまちにするという理念を掲げた。	市民ワークショップ等では、人と人のつながりや交流を大切にしたい、社会環境の変化に柔軟に対応することが重要である、利便性や緑など住みやすい環境を未来へつなげることが重要であるといった意見が多く挙がったことから、このようなまちづくりの基本理念としました。	無

No.	項目	いただいた意見の概要	市の考え方	反映状況
23	まちづくりの基本理念	次の8年間は人口増加の課題に対応しながら、その後の人口減少と少子高齢化に備える期間であると思うが、その危機感があまり感じられない。変化に対応するだけでなく、目の前の困っている人を助ける姿勢、誰一人取り残すことのない「全ての人を大切にすまち」としての表現をもっと取り入れてほしい。	社会環境の急激な変化に対応するため、人と人の結び付きを更に強め、互いに認め合うことで、すべての人がいきいきと暮らせる持続可能な地域社会をつくっていくこととしています。	無
24	まちづくりの基本理念「1人が主役であること」	あまりにも抽象的で何も言っていないのと同じだと思った。SDGsの「誰ひとり取り残さない」という基本理念に共感しており、市も同様の趣旨を掲げてきたことから、まちづくりの基本理念の「人が主役であること」を「すべての人が主役であること」に修正すべきである。	「すべての人が主役であること」に修正します。	有
25	まちづくりの基本理念「1人が主役であること」	まちづくりの基本理念として「人が主役であること」を掲げるのはよいが、逆に「人」意外に何があるのかという疑問が湧く。当たり前すぎることを強調しすぎているので、説明が不足している。 続きの説明の内容を勘案すると、「すべての人が主役であること」とした方が、個性を大切にすまちの姿につながる。 個々の活動がまちをつくり、これがまちの個性につながるものと考え、「まちづくりの主役は市民です」といった文言で整理してはかがか。	No.24と同様	有
26	まちづくりの基本理念「1人が主役であること」	「ともに成長しながら」とあるが、人は成長ばかりできるわけではなく、常に成長を求めてきた弊害が現在の環境の悪化とも言える。常に成長を求められることは大変苦しいことでもある。そのため、「成長」ではなく「認め合い、手を携えながら」という文言に変更してほしい。	「ともに成長しながら」は、成長を強要する趣旨ではなく、それぞれのペースや考え方で関わり、前に進むこと表しています。また、「認め合い、手を携える」という意味は、「思いやりをもって関わり合い」、「認め合い、手を携える」に含んでいます。	済
27	まちづくりの基本理念「3まちの心地良さを未来へつなげること」	「築きあげた」では主体が市になる。市民目線であるのであれば、「築き上げられた」が妥当である。	「築き上げられた」に修正します。	有
28	その他	未来をつくる子どもたちに今、何が必要かを優先に考えるまちになること。教育予算の増額、東京都への教職員の増員や、いじめや不登校対策の専門職（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー）を常勤化の要請、学童保育所の狭あい状況の改善、小・中学校の給食の完全無償化の早期実現、中学校でも全員が食べられる給食の実施、これらを教育ビジョンの策定において具体的な対策を入れることを求める。	今後の具体的な施策の実施に当たって参考とさせていただきます。	無
29	その他	非核平和宣言都市として、ピースメッセンジャーの広島派遣、平和祈念式、平和祈念行事など、これまでの実績を大切に、さらに引き継いでいくことを求める。数少なくなってきた戦争体験者の話を、若い方が語り伝える方法をどのように工夫していくか考えるべき。	No.28と同様	無
30	その他	第9期介護保険事業計画を具体的に進めてほしい。高額な費用により入所できないという声が多いことから、特別養護老人ホームの増設を求める。	No.28と同様	無
31	その他	緑地に住宅が建ち、住民が増えている。住民が増えることに反対ではないが、緑地の確保は市の大切な役割だと考えている。“緑が多く住みやすい国分寺”が続くよう、緑化対策に力を入れてほしい。	No.28と同様	無
32	その他	国分寺市は人口増が著しく、緑地帯・畑が宅地化されている。急速に進む宅地化で、市民農園も減少している。市民農園を復活させてほしい。また、X山のような緑地帯は必要である。緑地帯保存に向けた基本理念・ビジョンがこれからますます必要となる。災害時の安全確保のために、避難所のためにも空地が必要である。温室効果ガスの排出抑制などを目指し、市民と共に緊急の対策を講じてほしい。	No.28と同様	無
33	その他	名水百選のお鷹の道・真姿の池湧水群を持つ国分寺には、「国分寺市湧水及び地下水の保全に関する条例」がある。PFASによる地下水汚染問題は、全国に広がる問題であり、特に国分寺市・近隣市の水の汚染問題では、確かなデータを取るために水質検査・疫学検査・土壌検査等が必要である。東京都・国と連携して対策委員会を設置することを求める。	No.28と同様	無

No.	項目	いただいた意見の概要	市の考え方	反映 状況
34	その他	家庭から出るプラスチックゴミで一番かさばるものが食品トレイだが、中でも透明トレイの回収場所が少ない（たまごパックも同様）。回収店舗と回収物を増やし、市民が身近な場所に持っていけるように努力してほしい。また、市内生産者がプラスチック容器を使用しない取組ができるよう協力体制を構築してほしい。	No.28と同様	無